

高知大学 病院 ニュース

〔編集〕

高知大学病院ニュース

編集委員会

委員長 山本 哲也

〔発行人〕

高知大学医学部附属病院

病院長 杉浦 哲朗

新年度にあたって

病院長 杉浦 哲朗



高 知大学医学部附属病院長を拝命し、早くも3年
が過ぎました。この間、職員の皆様には忙しい臨
床業務に追われながらそれぞれの立場で日々患者さん
のcareとcureに尽力いただき感謝申し上げます。近年、
大学病院に対する予算の削減と医師の大都市集中によ
り、大学病院における本来の教育・研究・診療機能のバラ
ンスが崩れかけています。平成24年4月より診療報酬
本体は1.38%のプラス改定となり、特に手術料の引き上
げ、内科的専門性の高い技術の評価、感染防止対策の
評価、チーム医療の推進、先進医療の保険導入、そして
新規特定保険医療材料等にかかる技術料などに対する
評価が高まりました。本院の運営上役立つものも多く、積
極的に取り入れてきましたが、病院収入増に十分活かし
きれていない状況です。そこで、平成24年度の経営状
況と今後の方向性について述べたいと思います。

平 成16年度の法人化時の稼働額(診療報酬請求
額)103億円に対し平成24年度の稼働額は151
億円と約1.5倍の伸び、また、平成16年度から平成23年
度まで年度平均で毎年5.4%の稼働額アップで、これに
は診療報酬改定のプラス影響はあるものの、病院スタッ
プの皆さんの日頃のご協力の賜物と感謝申し上げます。
しかしながら、平成24年度における診療報酬改定で
手術手技料等がプラス改定となったにもかかわらず、本
院の稼働額は前年度比2.0%アップの151億円弱に
とどまり、目標稼働額152億円に対し約1億円稼働額
が減少する見込みです。この大きな要因は病床稼働率
の減少で、特に8月以降70%台の月が多く、平成24
年度の年間病床稼働率は80.7%と平成23年度実
績に対して、2.15%病床稼働率がダウンする見込み
(2.8億円の影響)です。もう一つの要因は入院1日平
均単価です。平成24年度診療報酬改定の影響で平
均入院単価は初の60,000円台となりましたが、単価
を左右する一番の要因である高額手術件数が減少し、
本院では手術手技料のアップ分を十分に活かしきれて
いません。

一 方、平成24年度から病
院再開発がスタートし、新
病棟の建設工事が現在行われ
ていますが、病院再開発には総
額で185億円を要し、そのうち160億円は借入金で、
病院収入から計画的に国に返済しなければなりません。
現在、文部科学省に認められている再開発工事は建設
中の新病棟のみであり、平成27年度以降の既存病棟
の改修工事、中央診療施設改修工事、外来棟改修工事
は予算化されておらず、平成26年度から順次、概算要
求を行う必要があります。この概算要求提出資料の「償
還計画書」では、病院収入から借金を確実に返済でき
ることを証明しなければなりません。平成24年度ベー
スでの病床稼働率、入院単価で試算してみますと、支出額
が増大し(消費税アップ、新病棟稼働による看護単位
の変更に伴う看護師の雇用経費など)平成28年度以降
赤字に転落し借入金の返済が困難になり、文部科学省
から再開発計画にストップがかかる可能性が大きくなりま
す。赤字を回避するためには、現在の外来診療を維持し
つつ、病床稼働率85%、入院単価65,000円にすること
が最低条件となります。再開発を継続するにあたっては、
平成25年度から効率的な病床運用、高額手術実施件
数の増加を図り、病床稼働率及び入院単価とも右肩上がり
であることを示す必要があります。

二 れまで、病院職員の増員や常勤化を実施し、医
師、看護師に対し手当を新設し、総額にして3.5
億円の処遇改善を行ってきました。更に平成25年度から
薬剤師に対しても手当を新設する予定であり、総額にし
て年間1.4億円を処遇改善経費として支出する予定で
す。加えて、メディカルソーシャルワーカーの増員、メディ
カルクラークの質の向上を図り、チーム医療の推進を図っ
ていきたいと思っています。病院の総意としてスタートした再
開発の完成に向かって邁進していきたいと考えておりま
すので、職員の皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、お
願い申し上げます。

次世代医療創造センター

<Integrated Center for Advanced Medical Technologies (ICAM Tech)>

次世代医療創造センター センター長 執印 太郎

この度、質の高い臨床研究、医療シーズ実用化の拠点として、臨床試験センターに代わり「次世代医療創造センター」が設立されました。

本学ではこれまで「医学部附属先端医療学推進センター」が、基礎研究から臨床研究への橋渡しを行ってきましたが、次世代医療創造センターが以下の取組を進めることにより、医療シーズの実用化及び質の高いエビデンスの構築に向けた活動が一層強化されることになります。

1 質の高いエビデンスを生む、機動力のある臨床研究支援・実施システムの整備

- ・データセンターおよび実用化戦略のためのプロジェクトマネジメント機能の充実
- ・コンサルティング、研究デザイン、プロトコル作成、EDCサービス、データマネジメント、統計解析等の支援

2 レギュラトリーサイエンスに準拠し、承認に向けた専門機能の整備

- ・GCP、GMP、GLP、ISOに基づいた臨床研究・治験の各段階に対応する担当者の配置
- ・規制当局(PMDAなど)や製薬企業の承認申請・審査業務経験者の招聘

3 臨床研究・治験を高い水準で実施するインフラの整備

- ・臨床研究担当者を配置した臨床研究専用病床の設置
- ・有害事象、安全性評価、補償対応に通じた専門部署と業務体系の確立

4 知的財産マネジメント、産学連携を行い事業化戦略を行うための支援体制の整備

- ・知的財産(特許)の取得と活用、企業との連携、インセンティブとサポートの契約
- ・関係者間の調整と協働の主導

5 中央倫理審査機能の充実と国際臨床研究への対応

- ・倫理性、科学性、社会性から研究グループを客観的に審査・管理できる中央審査機能の設置
- ・CITIプログラムを通じたOHRP登録など、国際水準を満たす機能の保持

6 人材育成のための多角的活動の実施

- ・医療従事者、研究者、教職員への教育プログラムの充実
- ・PMDA、産業界、国内外の関連機関との人事交流
- ・臨床研究・治験を推進する人材の評価、キャリアパスの整備

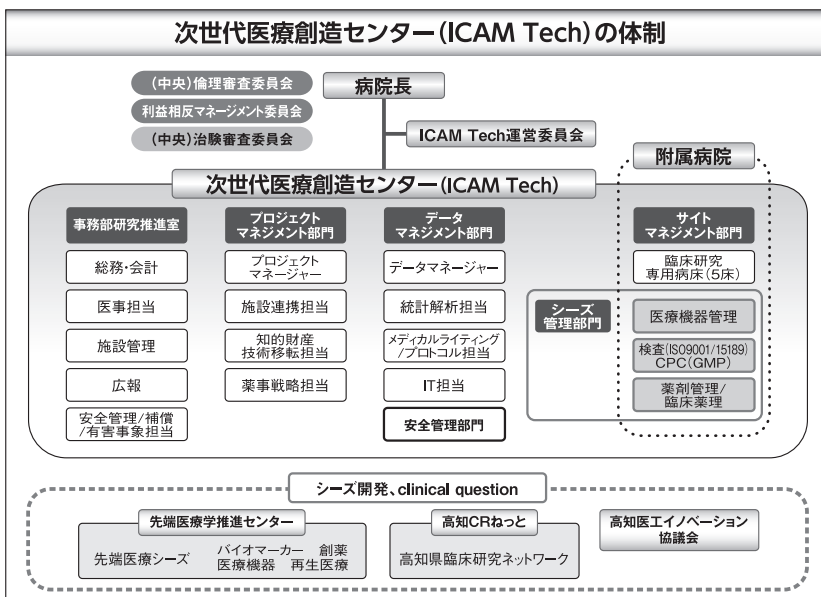
7 社会的な個別問題への対応

- ・希少疾患、難治性疾患、未承認薬、再生医療、小児疾病への対応
- ・医療機器実用化推進のための産学連合・地域連携の推進

8 多施設臨床研究ネットワークの整備

- ・「高知CRねっと」(本学医学部と医療施設を結んだ中央倫理審査機能を備えた臨床研究・治験のネットワーク)の整備
- ・参加施設への教育講習や、オンラインEDCを利用したデータマネジメント

本学では多くの研究者が先端的な生命科学の研究を行っており、そこから新しい診断治療の元となる技術が生まれています。また、医療者が日々の診療の中で重要なクリニカル・クエスチョンを持つことも多いと思います。これらは適切なプロジェクトの推進により次世代の医療として実用化され、世界中の患者へ福音をもたらす可能性を持っています。自身の持つ可能性を将来の実臨床につなげたいと考えている研究者や医療者の方々には「次世代の患者へ、次世代の医療を」届けるために、ぜひお声をかけていただきたいと思います。



【用語解説】

シーズ:次世代イノベーション創出の種(Seeds)となる基礎的な研究の成果

エビデンス:ある治療法がある病気・怪我・症状に効果があることを示す証拠、検証結果

EDC:電子的データ収集

レギュラトリーサイエンス:科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づいた確かな予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学

PMDA:(独)医薬品医療機器総合機構

OHRP:米国保健福祉省被験者保護局

GCP:医薬品の臨床試験の実施の基準

GMP:医薬品等の製造品質管理基準

GLP:医薬品の安全性に関する非臨床試験の実施の基準

ISO:国際標準化機構

卒後臨床研修体験記



葺石 陽亮

このたび高知大学での初期臨床研修を終了し、4月から高知大学泌尿器科レジデントとして働いている葺石陽亮と申します。

私は高知大学と高知医療センターとのたすきがけプログラムで、1年目は高知大学で2年目は高知医療センターで研修しました。

高知大学での研修は、やはり大学病院として各々の専門分野・施設が揃っている中、研修医として守られた枠の中で研修が行えるというのがメリットだと思います。また、学会にも積極的に参加させていただくことができ、アカデミックな面でもよい刺激となりました。

2年目は主に高知医療センターで研修し、普段病棟で見るとような既に診断のついている患者さんと違い、主訴だけばら下げて歩いてくる患者さんを一から診察して診断に至るまでのプロセスを学べました。Common diseaseを学ぶにうってつけ、内容もただの風邪から急性腹症や心筋梗塞などの緊急疾患まで様々で、大変勉強になりました。

この2年を振り返ってみると迷惑ばかりかけていたように思いますが、たくさんの指導医、コメディカルの先輩方、そして患者さんからの温かく、時に厳しいご指導のおかげで無事研修を終えることができました。楽しいこともつらいことも全てがよい経験であり、勉強であったように思います。特に最初は、右も左も分からない状況で迷いの連続でしたが、毎日が新鮮で、少しずつ医師という仕事に責任感を感じながらも楽しく働けるようになっていきました。

奈良県出身の私ですが、学生時代から慣れ親しんだこの高知で引き続き医師としての知識と技術を磨き、精進していきたいと思ひます。これからもよろしくお願ひいたします。



高谷 将悟

私は高知大学医学部を卒業後、高知大学医学部附属病院で初期臨床研修に臨みました。

学生時代に試験に通るためだけの勉強してきた私にとって、初期の頃は知識の無さに強い焦燥感があったことを思い出します。今でも知識の無さを痛感することはありますが、2年の研修を終え、少しは成長したのではないかと思います。

研修プログラムとしては、比較的自由に選択でき、自分の望むように研修できたと思います。大学病院での研修は、「カンファレンスが多く、ゆっくりじっくり考えて」という印象です。カンファレンスでプレゼン能力を磨くことができ、また頭の回転の遅い私にとってはじっくり考えながら、診療できることがマッチしていたように思います。2年目では合計6ヶ月間、他病院で研修をしました。大学病院とは違い、スピーディーな印象で、大学病院での研修を土台として臨むことができ、非常に有意義な研修をすることができました。

初期の頃は何もできない自分に気が滅入ることもたくさんありましたが、何か一つでもできることはないかと考えた結果、「ゆっくり患者さんの話を聞き、笑顔で対応すること」を第一の目標としました。今では自然と笑顔になれるようになったと思います。

2年間の研修で関わった先生方を初め、スタッフの方々にはたくさんのご迷惑をかけ、色々ご指導頂きました。また患者さんから学ぶこともたくさんありました。2年間の研修を活かし、これからも日々精進していきたいと思ひます。

退職にあたって



臨床工学部 技士長

氏原 友三郎

私は昭和56年7月、本院手術部に医療機器操作員として就職しました。昭和63年の臨床工学技士法施行後はその国家資格を取得し、現在まで約32年間に亘り勤務させて頂きました。私達臨床工学技士は、医療機器(ME機器)の操作・保守管理が主な業務ですが、就職した当時は、院内でその職種に相当する者は私一人であり、業務は知られておらず、周りの人に「何をされる方ですか?」とよく聞かれました。私自身、経験も無く何をしたいのか解らない事が多々あり、一人で暗中模索の毎日を過ごした事が、苦くも懐かしく思い出されます。当時は、生命維持管理装置や医療機器の中央管理などという言葉も無く、人工呼吸器、透析、人工心肺などの生命維持管理装置は、医師が管理・

操作するものとの考えが一般的でした。現在これらは、医師の指示のもと私達15名の臨床工学技士がその任にあっておりますが、今から思えば隔世の感があり、感慨無量であります。

平成14年には、5名の臨床工学技士を配したME機器管理室が発足し、平成24年には臨床工学部と改組されました。ここまで来ることが出来たのは、杉浦病院長、花崎臨床工学部長はじめ、皆々様の温かい御支援の賜物と深く感謝しております。

4月からは、徳島文理大学保健福祉学部臨床工学科教授として第二の人生を歩む予定であります。皆様がこの病院ニュースを読まれる頃は、微力ながら後輩の育成に携わっております。ただ、臨床工学部へは時々寄らせてもらう予定でありますので、今後とも何卒宜しくお願い致します。

最後になりましたが、本院の益々のご発展をお祈りするとともに、今後も臨床工学部への皆様の温かいご支援を宜しくお願ひ申し上げます。

医局長・外来医長・病棟医長一覧

平成25年4月1日現在

診療科	科長	副科長	医局長	病棟医長	外来医長
内科	西原 利治	岩崎 信二	岩崎 信二	耕崎 拓大	高橋 昌也
	寺田 典生	藤本 新平	西山 充	谷口 義典	次田 誠
	◎横山 彰仁	窪田 哲也	窪田 哲也	池添 隆之	大西 広志
	北岡 裕章	古野 貴志	山崎 直仁	久保 亨	古野 貴志
小児科	藤枝 幹也	久川 浩章	久川 浩章	山本 雅樹	堂野 純孝
精神科	下寺 信次	下寺 信次	藤田 博一	河野 充彦	永野 志歩
皮膚科	佐野 栄紀	中島喜美子	山本真有子	高田 智也	志賀 建夫
放射線科	小川 恭弘	西岡 明人	久保田 敬	刈谷 真爾	西岡 明人
外科	花崎 和弘	杉本 健樹	駄場中 研	北川 博之	尾崎 信三
	◎渡橋 和政	西森 秀明	西森 秀明	久米 基彦	栗山 元根
麻酔科	横山 正尚	山下 幸一	山下 幸一	北岡 智子	河野 崇
				河野 崇	
産科婦人科	深谷 孝夫	前田 長正	泉谷 知明	前田 長正	池上 信夫
整形外科	谷 俊一	池内 昌彦	武政 龍一	永野 靖典	木田 和伸
眼科	福島 敦樹	福田 憲	角 環	西内 貴史	松下恵理子
耳鼻咽喉科	兵頭 政光	小林 泰輔	小林 泰輔	小森 正博	弘瀬かほり
脳神経外科	上羽 哲也	政平 訓貴	政平 訓貴	川西 裕	中居 永一
泌尿器科	執印 太郎	井上 啓史	蘆田 真吾	深田 聡	鎌田 雅行
歯科口腔外科	山本 哲也	山田 朋弘	山田 朋弘	北村 直也	笹部 衣里
総合診療部			武内 世生	北村 聡子	小松 直樹

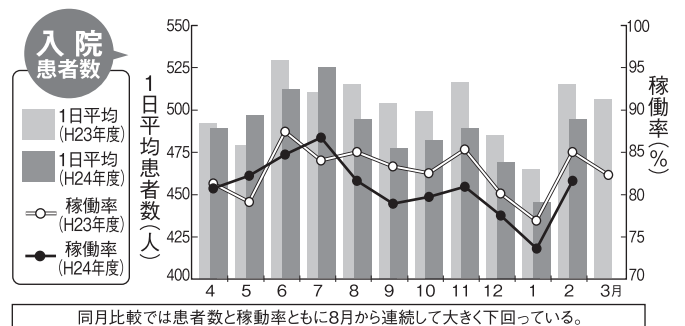
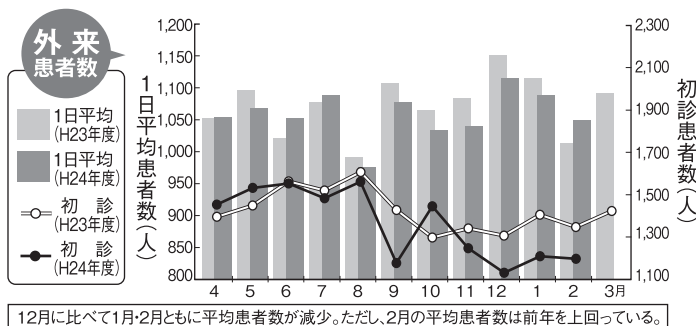
◎は主任科長

平成25年度 病院ニュース編集委員会委員名簿

任期:平成25年4月1日～平成26年3月31日

- | | | | |
|-------------|------------------------|-----------|--------------------|
| 委員長 | 山本 哲也 (歯科口腔外科 科長) | 委員 | 松村 敬久 (検査部) |
| 副委員長 | 寺田 典生 (内科[内分泌代謝・腎臓]科長) | | 若狭 郁子 (看護部 副看護部長) |
| 委員 | 小松 直樹 (総合診療部) | | 岡村 一也 (総務企画課 課長補佐) |
| | 河野 崇 (麻酔科) | | 大野 憲昭 (医事課 課長補佐) |

診療状況



編集後記

新年度最初の病院ニュース発行となりました。皆様の部署でも新しい一年を始められたことと存じます。

今年の桜は例年よりもずいぶんと開花ペースが早く、お花見の予定など急遽変更された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。毎年繰り返されることですが、桜が咲きそして散っていく風景を見ると、桜にとっても自分にとっても一年が巡ったことを実感し、ひとつの区切りを感じます。桜の花

の潔さがそのような感覚をもたらすのでしょうか、はたまたマスコミの影響でしょうか。最近、秋入学の導入などが議論されていますが、暑い季節に区切りを迎えるというのは、我が国の慣習のためか、高知の酷暑を思い浮かべると、どうも想像しづらい気がします。

新病棟建設も徐々に進み、病院にとっての大きな区切りに近づきつつあります。桜が春に向けて力をためているように、私たちも準備をしていかなければならないと思う今日この頃です。

(文責:多田 邦子)